

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ R7学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立金岡南小学校
校長 佐藤 真理子

中学校区におけるめざす子ども像
自分のよさを知り、失敗を恐れなくて挑戦する子

令和7年度 重点目標
・総合的な学力向上の育成 ～ ①「学びに向かう力」を引き出す ②ICTを活用し情報活用能力を伸ばす ③言語活動の活性化を図り「思考力・判断力・表現力」を伸ばす ④学力に課題のある子どもの「知識・技能」の基礎基本の定着を図る ⑤家庭学習習慣の充実を図る ⑥読書週間の定着を図る ⑦探究的な学びを推進する
・豊かな心と健やかな体を育成するための指導の充実 ～ ①すべての子どもに「居場所」と「出番」のある教育活動を通して自尊感情を醸成する ②豊かな人権感覚をもった指導 ③どの子ども安心して学べる学習集団を育てる ④障害児理解教育等を通して違いを認め合える集団づくり ⑤体験活動を大切にし、感動体験を積み重ねる
⑥体力向上と運動習慣の確立 ⑦7つの約束の定着を図る ⑧給食指導の徹底を図り「食育」を推進する
・地域協働型教育の推進 ～ ①学校ホームページや学校通信を活用し、学校教育活動の情報公開と発信に努める。②地域行事への参加や、地域人材を活用することで、地域と学校とのつながりを自覚し、地域の人への感謝の気持ちを育てる。

「確かな学び」の現状
・研修テーマを「ともに学ぶ子どもの育成、めざす子ども像を「自分の考えを、進んで表現する子」とし、研修を進めてきた。その成果は学年でばらつきがあるが、全体としてまだ、未達であると考え。児童アンケート調査では、「挙手して発表している」の肯定的回答が65%、「自主学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答が49%である。つまり、自主的ではなくやらされている学習となっているのではないかと考える。そこで、「自分の考えを、進んで表現する子」をめざし、学習展開や指導の在り方について研修を進める。研究授業においては、今年度も「国語（傾聴「読むこと）」思考・判断・表現について研究を深める。

「豊かな心・健やかな体」の現状
・「一人ひとりに居場所と出番を保障する人権教育をめざす」、また、「自分を大切にする子、人を大切にする子、ものを大切にする子」の育成をめざし教育活動を進めてきたが、学年が上がるにつれ自己肯定感や自己有用感が低くなる傾向がある。また、依然として不登校児童や、学校に行きづらく、保健室等別室で過ごす児童もいる。教職員の現状としては、1校目の経験の少ない者が多く、教職員全体の人権感覚や生徒指導力の低下が懸念される。体育の授業時間内において、運動の内容と目的を明確にし、運動量を確保することに取り組んでいる。運動が好きな児童、主体的に取り組む児童が多いが、運動能力・技能や新体力テストの結果では、全種目に課題がある。また、児童数が多いことも要因の一つではあるが、ケガ等での保健室来室者が非常に多い。安全管理や安全指導をよりいっそう徹底する必要がある。

大項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
							自己評価	学校関係者評価
確かな学び	児童が主体的に学習に取り組む、「ともに学ぶ子ども」を育成する。	●自分の考えをもとに、グループで学習したり、全体で共有したりする授業や教材の研究をすすめる。	ノートに自分の考えを書き、児童どうしがその考えを共有したり話し合ったりしている。	学校教育アンケート	2学期末 3学期	○ 授業内でペア・グループ活動を積極的に取り入れ、表現の幅を広げている。	○	自分の考えをノートに書くことは、思いと考え、気持ちを整理する力のもつなげるのでよい取り組みだと考える。
		●家庭での自立した学習を支援するための、「自主学習ノート」「MY手帳」の指導を徹底する。	全年で自主学習ノートに取り組み、コメント等で評価している。	児童のノート ノートグランプリ	2学期末 3学期	○ コメントを残すなど、児童が意欲的に取り組めるようにしている。また、児童の手本となるように家庭学習通信の発信を定期的に行っている。	○	
	「全員参加」「全員理解」の魅力ある授業によって、思考力・表現力・表現力を高める。	●「考える力」「表現する力」を伸ばす、魅力ある授業の研究を進める。 ●全教職員が、公開授業を行うとともに、積極的に参加することで、授業力を向上させる。	児童のノートやタブレット端末に、思考の深まりや変容が表れている。 グループや全体での交流の中で、思考の深まりや変容が表れている。	授業実践 児童のノート アンケート 授業実践 児童のノート アンケート	公開授業 アンケート	2学期末 3学期 2学期末 3学期	○ 発表ノートを用いたり、ノートを集めたりし、単元で児童の思考変容を見とれるようにしている。また、ノートグランプリに取り組み、手本となるノートの紹介をしている。 ○ 研究課題に沿った授業を行い、検討会を積極的に開催し、教員の学びを深めている。	○ ○ ○
豊かな心・健やかな体	一人ひとりに「居場所」と「出番」を保障する人権教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。	●どの授業においても、全ての児童が安心して心を開いて学べる学級集団をめざして、「明確なねらいと役割のある話し合い活動」を充実させる。	「授業中、友達とペアやグループで学習することは楽しい」の肯定率	学校教育アンケート 学習の振り返りシート	2学期末	○ ノートに自分の考えと友だちの考えを書くよう声かけをしたり、ペア・グループ活動を意図的に取り入れたりした。また、振り返りで見とれるようにしている。	○	子どもたちの自己肯定感や自己有用感を育てるには、身近なちょっとした善い行いを先生が気づいて褒めることが大切である。子どもたちが「自分って役に立っている」「生きるっていいなあ」と実感できるような教育をお願いしたい。
		●いじめを見逃さない学級づくりのために、学校生活アンケートで児童の生徒指導上の困りごとを表出させ、担任を中心に早期対応にあたる。	「学校は、きまりを守る態度の育成や、いじめを見逃さない学級づくりに取り組んでいる」の肯定率	学校教育アンケート 学校生活アンケート	2学期末 毎学期	○ 毎学期児童アンケートを実施し、否定的な回答のある児童については担任が聞き取りを行い、解決に向け取り組んでいる。	○	
		・道徳の時間を核として、教科学習との関連を図りながら、計画的・継続的に道徳教育を充実させる。年1回、学習参観での道徳授業を行う。	「道徳」(光村図書)「みらいをひらく」を効果的・計画的に活用する。	授業実践	2学期末	○ 6学年中、5学年が学習参観での道徳授業を実施している。未実施の学年についても、3学期に行う見直しを立てている。	○	
	運動に親しむ機会や学習を通して、体力を向上させる。	・体育の授業以外にも、委員会活動や児童朝礼などでの啓発活動を通し、児童に日常的に体力向上を意識づける。 ・体力の向上を意識した準備運動や基礎感覚づくりの運動を系統立てて取り入れ、身体の使い方を体で感じられるような学習機会の工夫をする。	「運動することは好きだ」の肯定率	学習の振り返りシート	授業実践	2学期末 2学期末	○ ・休み時間などのみんな遊び時間を活用し、児童の運動時間の確保を行っている。 ・体育委員会が中心となり、ドッジボール大会や鬼ごっこ大会を企画・実施し、運動の機会をつくっている。また、朝礼やポスターなどで啓発活動をしている。	○
食育を推進し、健康の維持増進を図る。	栄養教諭と担任等が連携し、各教科における食育や給食時間における食育の取り組み、および給食委員会の啓発活動を通し、食の大切さを考え、好き嫌いをなく食べようとする意識を高める。	1学期より残食量を減らす。	残食調査 6月、11月	残食調査	2学期末	○ ・栄養教諭が中心となり、各教科と連携した食育授業を行っている。また、給食委員会において委員会活動の中で感じた給食での課題について朝礼で啓発したり、ポスターを作製したりしている。	○	○ 給食では各地の郷土料理や外国の料理を取り入れるなど、子どもたちの興味・関心を高める工夫がなされており、食育の観点からもよい取り組みだと考える。
(地域協働)	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める。	・学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状や成果等の発信に努める。	学校ホームページや校報で、教育活動について情報を発信する。	実践報告	2学期末	○ 校報を毎月発行し、教育活動を発信している。毎日、ホームページを更新し、教育活動や子どもたちの様子を発信している。	○	学校のホームページでは、授業風景や日々の活動内容が発信されており、学校の様子が分かりやすく伝わっていると考える。
		★中学校区3校が連携し、つながる教育を進める。 ・生活科・総合的な学習の時間等で地域人材を活用した取組を行う。	3校で情報共有、合同研修等で連携をしていく。2・3年「校区探検」や4年「防災教育」等で連携に取り組む。	実践報告	3学期	○ 金岡南中学校区で合同研修を行ったり、生活科や総合的な学習の時間に、地域の方々と交流したりしながら、連携を図っている。	○	

校長より (年度末)
自分の考えをノートに書くことやペア・グループ活動を通して友達と考えを共有することで、自分の考えを表現しようとする児童の姿勢が見られた。次年度は児童が目的意識をもって自主学習に取り組めるように工夫し、また外遊びができる時間を増やすなど、体力向上のための取組に力を入れていきたい。また授業改善をさらに進め、保護者や地域から信頼される学校づくりをめざしていきたい。

学校関係者評価者から (年度末)
全ての子どもたちが「学校が楽しい」「明日も楽しみ」と感じる学校づくりを進めている点については評価できる。先生方が全ての児童を大切に育ててくれているのを実感した。引き続き、子どもたちが「幸せ」を実感してこの町で生きていけるような教育を、地域と学校が連携し一体となって取り組んでほしい。